

# 日本産オヤマノエンドウ属 (Oxytropis) の植物

松本市 豊国秀夫

マメ科オヤマノエンドウ属(Oxytropis)の植物は、北半球の温帯から亜寒帯をへて寒帯にまで分布し、日本では5種類自生することが知られており、レブンソウ1種を除けば全て高山帯に自生している。

日本高山帯に産するマメ科(Fabaceae)植物は次の検索表に従って3属に分類される。

## 日本の高山帯産マメ科植物の属の検索表

1. 通常竜骨弁は旗弁より長く、果実は節果……………イワオウギ属

1. 通常旗弁は竜骨弁より長く、果実は豆果……………2

2. 竜骨弁の先はとがり、しばしば嘴状に突出する……………オヤマノエンドウ属

2. 竜骨弁の先はまるい……………ゲンゲ属

これら3属の日本の高山帯・亜高山帯産の種類は次のように整理される。

(1) **ゲンゲ属**(Astragalus)：ムラサキモメンヅル、エゾモメンヅル、シロウマオウギ、リシリオウギ、タイツリオウギ

(2) **オヤマノエンドウ属**(Oxytropis)：オヤマノエンドウ、ヒダカミヤマノエンドウ、ヒダカゲンゲ、レブンソウ、リシリゲンゲ

(3) **イワオウギ属**(Hedysarum)：イワオウギ、カラフトゲンゲ

今回は、これら3属中の一つであるオヤマノエンドウ属(Oxytropis)を解説する。

オヤマノエンドウ属 Genus Oxytropis De Candolle

## 日本産の種・亜種への検索表

1. 1花序に対して1-2個(希に3個)の花がつき、苞は楕円形で長さ4-6mm……………2

1. 1花序に対して通常3個以上の花がつき、苞は披針形で長さ7-20mm……………4

2. 托葉は厚く紫褐色で豆果は有柄、柄の長さは4-8mm……………ヒダカゲンゲ

2. 托葉は藁色で薄い膜質で豆果はほとんど無柄……………3

3. 植物体は全体が緑色……………オヤマノエンドウ

3. 植物体は全体に絹毛が密生し白っぽい……………エゾオヤマノエンドウ

4. 花は黄白色……………リシリゲンゲ

4. 花は紅紫色……………5

5. 花は5-15個ずつ1花序につき、旗弁の先は凹い……………レブンソウ

5. 花は3-6個ずつ1花序につき、旗弁の先はへこむ……………6

6. 小葉は8-13対で、表面は無毛または毛を散生……………マシケゲンゲ

6. 小葉は5-8対で、表面に長い毛が多い……………ヒダカミヤマノエンドウ

では、種ごとに解説する。

(1) *Oxytropis nigrescens* (Pallas) Fischer subsp. *japonica* (Maximowicz)

### Toyokuni オヤマノエンドウ

東北地方南部から中部地方（飯豊山地、北アルプス北部、八ヶ岳、木曾駒ヶ岳、御岳山、南アルプス）に分布し、砂礫地や草地に生える小形の多年草。根は木質で太く長い。葉の小葉は3～7対ある。花柄は長さ1～5cmで、先に1～2個の花をつける。花は長さ1.7～2cm、紅紫色で美しく、旗弁が非常に大きい。

1886年、ロシアのマキシモヴィッチ（C. J. Maximowicz）により、木曾駒ヶ岳を基準標本産地として命名・記載された。スウェーデンのフルテン（E. Hultén）が言うように、*O. nigrescens* に近縁であり、その変種とする説もあるが、著者は、分布域も考慮して、亜種とすることにした。種小名の *nigrescens* は「黒ずんだ」、「黒味がかかった」の、また亜種名の *Japonica* は「日本の」意味。白花品種も *f. albiflora* (Makino) T. Shimizu シロバナオヤマノエンドウと言う。

#### (1-2) *O. nigrescens* (Pallas) Fischer subsp. *sericea* (Koizumi) Toyokuni エゾオヤマノエンドウ

北海道の中央高地に特産し、全体がやや小形で、白軟毛が密生するため、白っぽく見える。小泉源一により、1918年にオヤマノエンドウの変種として発表された。

1930年に中井猛之進により、独立種と見なされ、*O. yezoensis* と命名された。本植物も大陸の *O. nigrescens* の亜種と考える。基準標本産地は北海道の大雪山、亜種名の *sericea* は「絹毛のある」の意味。

白花品種を *f. leucantha* (Toyokuni) T. Shimizu シロバナエゾオヤマノエンドウと言う。

#### (2) *Oxytropis retusa* Matsumura subsp. *hidakamontana* (Miyabe et Tatewaki) Toyokuni ヒダカミヤマノエンドウ

北海道の日高山脈ピパイロ岳を基準標本産地として、宮部金吾・館脇操により、1933年に命名・記載された。日高山脈北部の特産で、小葉は5～8対、花は花柄の先に4～5個ずつつき、長さ25mm内外、豆果には、黒い圧毛の他に黄褐色の毛がある。種小名の *retusa* は「やや凹んだ」の意味。

#### (2-2) *O. retusa* Matsumura subsp. *shokanbetsuensis* (Miyabe et Tatewaki) Toyokuni マシケゲンゲ

北海道増毛山地の暑寒別岳高山帯の砂礫地・草地に特産し、1935年に宮部・館脇により命名・記載された。ヒダカミヤマノエンドウに似るが、小葉は8～13対と多く、上面は無毛。花はやや小さく、長さ20～25mm、豆果には黒い圧毛がある。小葉の上面に毛のある形を *f. pilosa* Toyokuni ウスゲマシケゲンゲと言う。母種の *O. retusa* ミヤマノエンドウは千島に分布する。

#### (3) *Oxytropis revoluta* Ledebour subsp. *kudoana* (Miyabe et Tatewaki) Toyokuni ヒダカゲンゲ

この植物も北海道の日高山脈北部から中部にかけての特産で、1933年に宮部・館脇によって命名・記載された。小葉は4～7対あり、花はやや小さく、長さ1.3～

2 cm。

(4) *Oxytropis megalantha* H. Boissieu

レブソウ

1989年に、フランスのボワシュウ (H. Boissieu) が礼文島の採集品を基準標本として命名・記載した植物で、日本の礼文島とサハリンに分布する。小葉の数が多く8~11対あり、また花つきがよく、1花柄に5~15個の花がつく。日本産オヤマノエンドウ属中最も大形で、毛が密生する種類である。花は長さほぼ2cmで、1花柄に5~15個ずつつく。豆果には白い軟毛が密生し、黒褐色の毛がまじる。白花の品種もあり、シロバナレブソウ

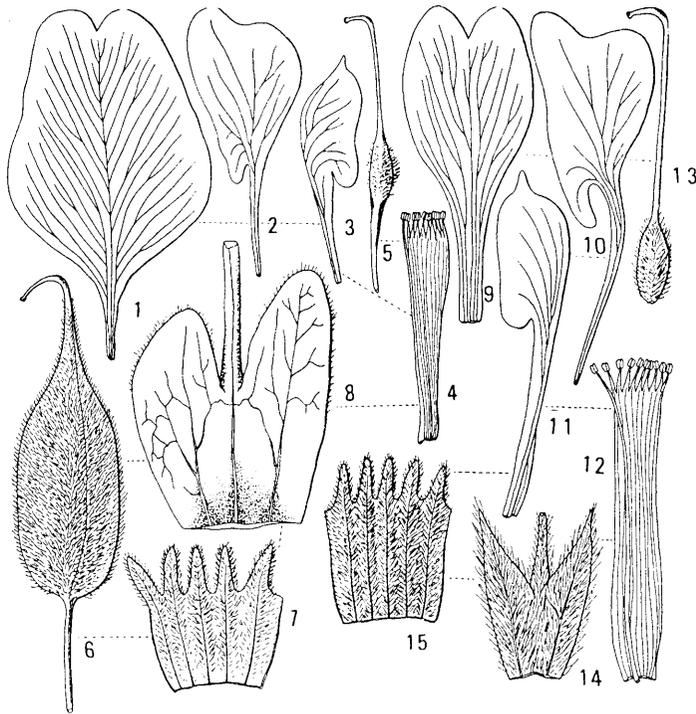
f. *albiflora* Ohba と言う。種小名の *megalantha* は「巨大な花の」の意味。

(5) *Oxytropis campestris* (Linnaeus) De

Candolle subsp. *rishiriensis* (Matsumura) Toyokuni **リシリゲンゲ**

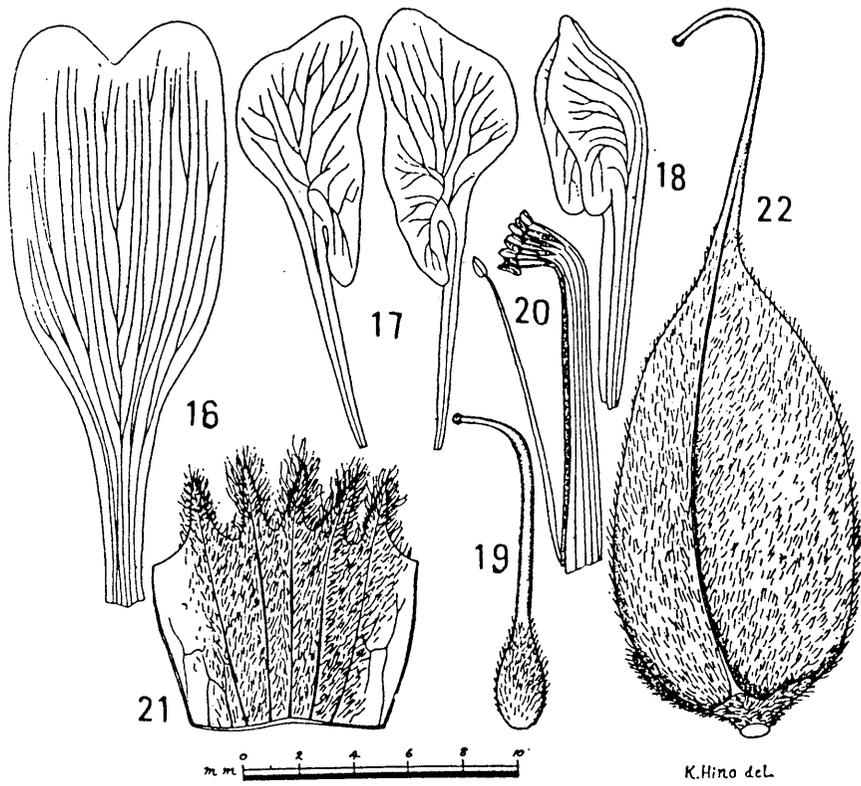
日本のオヤマノエンドウ属の中で、唯一、黄白色の花をつけるので、他の同属植物から区別できる。小葉は9~13対、花は長さ2mm前後で旗弁の先は凹入する。

母種 subsp. *campestris* は周北極要素で、サハリンにも分布し、宮部金吾・三宅勉「樺太植物誌」(1915)では「クモマオウギ」という和名が新称されている。母種では、葉の裏面や豆果に毛がある。



第1図 1-8: *Oxytropis revoluta* ssp. *kudoana* ヒダカゲンゲ、9-15: *O. retusa* ssp. *hidakamontana* ヒダカミヤマノエンドウ

1、9旗弁 2、10翼弁 3、11竜骨弁 4、12雄しべ 5、13雌しべ 6、豆果  
7、15がく 8、14托葉 (宮部・館脇)



第2図 16-22: *O. retusa* ssp. *shokanbetsuensis* マシケゲンゲ  
 16旗弁、17翼弁、18竜骨弁、19雌しべ、20雄しべ、21がく、22豆果 (宮部・館脇)